

# VIVID LETTER

大学病院の相談支援窓口から見てくるもの	1
VIVID 活動レポート	2
VIVID 事業カレンダー	3
ひとこと通信	3
ボランティア・見学者の声	2、4
お知らせ	4

なんでも相談  
毎週木曜日  
午後1時から3時  
**専用電話**  
**03-6380**  
**-2015**

“VIVID”は高次  
脳機能障害者の  
社会参加を支援  
する特定非営利  
活動法人です。

特定非営利活動法人 VIVID (ヴィヴィ)  
〒160-0021  
新宿区歌舞伎町2-19-13 ASKビル601  
TEL&FAX 03-5849-4831  
Eメール hbd-vivid@coast.ocn.ne.jp  
HP <http://www.vivid.or.jp>

## 大学病院の相談支援窓口から見てくるもの ～障害者総合支援法に関連して～

東京医科大学病院 総合相談・支援センター

医療ソーシャルワーカー 藤平 輝明

東京医科大学病院は特定機能病院、救命救急センター、地域がん診療拠点病院、東京都難病診療ネットワーク拠点病院、災害拠点病院など様々な機能を有しています。急性期医療を担当する病院として、がんをはじめさまざまな疾患に対して、ソーシャルワーカー・保健師・看護師と共に相談・支援を行っています。脳卒中などの脳血管障害の患者さんが、急性期の治療を経て、リハビリテーション中心の医療に引き継いでいく場面での調整やコーディネートは重要です。回復期リハビリテーション病棟へは、医療保険上の仕組みにより、発症から60日以内に転院しなければなりません。病状によっては、この60日を超えてしまう場合があり、リハビリテーションを行える療養の場を選定して行くことは困難な状況に直面します。患者さんご本人や家族の意向・経済的な問題の解決も含めて調整していくこととなります。突然倒れてしまった患者さんの病状を受け入れられないと言ったご家族の思いに寄り添いながら相談を進めています。



回復期リハビリテーション病棟に転院して行ったあご家族から、その後のリハビリの状況を伺うことがあります。6ヶ月間のリハビリテーションをされ、高次脳機能障害の後遺症を抱え、その後の自宅での療養が始まりました。娘さんと2人暮らしのため、日中はデイケアに毎日通っているとのこと。高次脳機能障

害とわかってはいるものの、会話がチグハグになったり、心ならずも怒ってしまったりして後悔することもたくさんありますと娘さんは語ってくれました。こんな時に支えになってくれるのは、当事者団体である家族の会であると思います。患者さんご本人とその家族を支えて行くシステムは地域に必要です。キーワードは孤立しないこと・一人で抱え込まないことだと思います。

また、ある患者さんは、心臓疾患の治療を通院でしていました。突然脳梗塞の発作で急性期の治療とその後リハビリテーションをして、その後の療養の場を決めていかなければなりません。50歳代で単身の生活ですから、日常的な介護者はいません。様々な方向が検討され、幸いにもグループホームへの入所が決まったと知らされました。このように、急性期医療機関で、回復期リハビリテーション病棟から後の療養生活を伺う時に、今の高次脳機能障害を抱える患者さん・家族を支える地域の機能は十分整備されていないことに気付かされます。

今年4月より障害者総合支援法が施行されました。障害者の自立支援、社会参加を促進し、難病患者を支援対象にするなど新しい施策も始まりました。しかし、サービスの利用料として応益負担の原則や介護保険優先原則はそのまま引き継がれており、大きな問題を含んだままです。旧障害者自立支援法は、障害者自身の基本的な権利を反映しないものとして、全国で生存権を問う裁判が起こされた上で、廃止の声が高まり、原告団との和解が成立した経緯があります。今回の新法・  
(2面につづく)

(1面より)

障害者総合支援法は、正式名称を、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」といい、難病患者の支援等の具体的な中身等はこれから具体化されて行きます。障害支援区分や認定調査のあり方も再検討が必要であると筆者は考えます。必要な支援であれば、制限や上限等を設けずに、利用者の意思

や裁量 が認められる仕組みに変えて行く必要があると思います。生活障害にきちんと適応できるようなシステムが必要だと思います。

当事者団体の日常的な取り組みは、患者さん・家族を励ましています。そして、その声を発信し続けている VIVID の活動はとても貴重です。これからも連携を強めて行きたいと思っています。

## VIVID 活動レポート

### ミニデイ発表会

#### 「注文の多い料理店」を朗読劇で

2013年度最終のミニデイは、2013年3月23日(土)「発表会」で締めくくりました。

3回目となる朗読劇は、「注文の多い料理店」で大勢のお客様をお迎えし、無事終了しました。月2回のミニデイのプログラムに適宜練習時間を設け、また、各自自宅に台本を持ち帰り練習をし、日頃とは異なった環境の中で披露、集中力、積極性等に繋がる大きな成果がありました。

オープニングは、音楽セラピーの担当者を中心とした3人グループ、「サウンドケーキ」によるギター、バイオリン演奏があり、メインの朗読劇では、役になりきり丁寧な朗読劇になりました。朗読劇の後は「みんなのアルバム」で、利用者の写真を映写しそれぞれが写真について説明しました。また、利用者の有志によるギター演奏と歌の発表があり、飛び入りありの楽しい一日になりました。

その後、新年度になってからのミニデイで、当日撮影したビデオを鑑賞し感想を話し合いました。

次のような意見がありました。「自分で思っていたより大きな声が出ていた」「集中できた」「スタッフが良かつ



たって言うてくれたけど本当かなと思ってた。ビデオを見て結構ヤルナと自分で思った」。

### 新宿区窓口連絡会より

#### ～サービス等利用計画策定～

新宿区には、「障害者自立支援ネットワーク」の分野別会議として7つの会議体が設置されており、そのうちの一つに「障害者相談支援窓口連絡会」があります。この会議は2ヶ月に一回、区関係機関、事業所等がメンバーとなっており、VIVIDはオブザーバーとして出席しています。

今年度の第1回の会議では、区から「サービス等利用計画」の状況について、お知らせがありました。2012年4月から障害福祉サービスを利用するにあたっては、利用計画が必要になりました。策定は、区の指定を受けた事業所の専門員が面接を行い、心身の状況、置かれている環境、暮らしの目標、その実現に必要なサービスの利用意向等うかがい、総合的な視点から作成します。

6月現在、次の7か所が区の指定事業所になっています。新宿区基幹相談支援センター、新宿区立子ども総合センターのほか、(有)プロオキン、地域活動支援センターまど、新宿西共同作業所ラバンス、地域活動支援センター風、地域活動支援センターファロ

詳しくは、新宿区障害者福祉課へお問い合わせを。

(03-5273-4516・03-5273-4302)

## ボランティアの声

障害者福祉の世界で働くようになって、今年で5年目になりました。ただただ目に映る人の笑顔が見たい、学びたいという気持ちを満たすために今日まで働いています。

VIVIDへは学びと笑顔(あと美味しいお弁当)という報酬のために図々しくお手伝いに来させていただいているので、「ボランティア」という言葉になんとか申し訳なさずら覚えます。

様々な障害をお持ちの方々を知る機会がありましたが、特に高次脳機能障害に対して心惹かれたのは、もしかしたら自分が、親が、友人が、そしてまだ見ぬ嫁が…と、他人事ではないリアリティを持った気がしていたからでした。

しかし、そもそも「高次脳機能」とは何かということを知りたくて、勉強していく内に、人の名前をなかなか憶えられないとか、

間違いさがしが苦手だとか、物の名前が出てこないとか、目より耳からの情報処理が遅いとか、自身や誰かに思い当たる点を見つけるにつれて、リアリティからリアルへと変わっていきました。個性と障害の間に曖昧に引かれた基準に苛立ちを覚えます。

障害を負ったという事実は、当事者やご家族の生活を突然大きく変えてしまいます。心のゆとりがなければ笑顔になれません。VIVIDではたくさんの笑顔を見ることが出来ます。そして私自身も、笑顔を見ることで心にゆとりが生まれ、笑顔になれます。VIVIDの全ての方に心より感謝です。

新宿区障害者福祉協会グループホーム・ケアホーム

「ぼけっと」 所長 平良 剛志

# VIVID 事業カレンダー

## 活動実績

※専門相談員によるなんでも相談  
(電話) 毎週木曜日

- 2月** 7日 中野区障害福祉課訪問  
9・23日 ミニデイサービス  
10日 春の音コンサート  
13日 平成24年度第3回高次脳機能障害者相談支援研修会(都心障)  
20日 新宿区相談支援窓口連絡会  
25日 帝京平成大学大学院学習会
- 3月** 9・23日 ミニデイサービス  
26日 新宿区障害者福祉課長訪問  
30日 2012年度障害者の支援計画づくり講座  
報告書発行
- 4月** 11日 けやき園と打合せ  
11日 春山外科病院訪問  
13・27日 ミニデイサービス  
17日 新宿セントラルクリニック、ケイアイクリニック訪問  
18日 大久保病院、社会保険中央総合病院訪問
- 5月** 11・25日 ミニデイサービス  
15日 認知リハビリプログラム講師と打合せ  
18日 理事会  
18日 ミニデイケアカンファレンス  
27日 東京女子医科大学病院、広尾病院訪問  
28日 東京厚生年金病院訪問  
29日 聖母病院訪問  
31日 ミニデイ利用案内  
(新宿区保健センター連絡会議)
- 6月** 1日 2013年度NPO法人VIVID第6回総会  
5日 東京医科大学病院訪問

- 8・22日 ミニデイサービス  
11日 NPO法人認証変更書類等東京都提出  
19日 新宿区障害者相談支援窓口連絡会  
19日 フジモト新宿クリニック訪問  
23日 T K K 2013年度総会
- 7月** 13・27日 ミニデイサービス  
17日 平成25年度第1回高次脳機能障害者相談支援研修会(都心障)  
31日 VIVID LETTER 発行

## 今後の主な予定

- 8月～** 高次脳機能障害 なんでも相談  
電話相談(月～金 10～17時)  
面接相談  
(毎週木曜日・第2・4土曜日 13～15時)  
ミニデイサービス 第2・第4土曜日  
セミナー 11月3日

## セミナーのお知らせ

「地域につなぐ日々のリハビリに向けて」  
～高次脳機能障害専門外来から～

講師：渡邊 修氏

(東京慈恵会医科大学附属第3病院  
リハビリテーション科医師)

日時：2013年11月3日(祝日)  
13時30分～16時

場所：新宿区戸塚地域センター

参加希望者はVIVIDまで連絡を。

## ひとこと通信

### ミニデイ利用者の投稿

### 自立を願って

息子に書くように言ってもなかなかペンが進まず、原稿の締め切り日をとくに過ぎてしまいました。就職して2年が過ぎました。最初は就労がかなって良かった、良かったの日々でした。いろいろ問題があっても仕方ないと職場も私たち家族もそう思っていました。2年も経つてくるとどうして約束が守れないの、決まったことができないのと注意される日々が続くと、それが障害だとわかっていても、もう少し注意してやれるようになってもいいのではないかしらと周囲は望んでしまいます。ますます悪循環です。

そんな葛藤の中、1年に1度のVIVIDの発表会への参加は彼にとってとても楽しい時間のようです。台本をいただき、役が決められると、夕食後部屋でこっそり練習しているのです。言い方で気になるところがあると、これで良いかと私のところへ確認に来ます。今年は司会という大役まで仰せつかり、相当緊張していたらしくお

昼のお弁当がのどを通らなかったようでした。普段はこちらの心配をよそに「大丈夫」と言っているのですが、本当のところは、彼自身の要求水準と出来とのギャップに気付き、気持ちの整理ができずに苦しんでいるようです。何となく本来の彼らしい一面を感じ、胸の詰まるどころでした。

楽しいこと、うれしいこと、辛いことを重ねながら一歩ずつ自立してくれることを願っています。

(新宿区在住  
太田三枝子)



写真：  
発表会で司会をするメイクをした  
太田慎佑さん

## 見学者の声

VIVIDのミニデイには、多い時で3～4名、平均1～2名の見学者が見えます。

6月8日(土)のミニデイは2名の方が見学に見えました。その中のお一人、今橋久美子さんが感想を寄せてくださいました。

ある家族会の会長さんに「こういう場所が増えたらいいなあとこのところを教えてください」とお尋ねしたところ「まずはVIVIDさん、それから・・・」と最初に答えてくださいましたので、とても楽しみに伺いました。やわらかな木洩れ日がそそぐ大きな窓、木のぬくもりのある広いフロアー、吹き抜けのある高い天井。ミニデイは静かで明るいカフェのような場所で始まり、JRの駅の近くに素敵などころがあることにまず驚きました。午前中は1階のフロアーでプログラムが進められ、ご家族は2階でミーティングを開いています。家族プログラムは、日々のさまざまなことについて情報を共有する場となっているようです。その日は食事や便秘の話題でしたが、普段困っていることを言葉にして、皆で解決方法を提案していました。司会の方が、聞き手に回っている方からもさりげなく話を引き出していました。

和やかな昼食をはさんで、午後はリーディング劇の練習でした。新しい台本での最初の練習日でしたが、仮の配役も立候補ですすいと決まり、初回とは思えないほど生き生きとした掛け合いが続きました。間違えても、リーダーの先生がわかりやすく説明したり、一緒に台詞を読んだり、会の名前のおりVIVIDだなあと聞き入ってしまいました。障害のあるなしによらず誰もが参加したくなるようなプログラム内容、かつひとりひとりの個性や体調にも配慮しながらの進行で、これからの地域活動支援には本当にさまざまな可能性があることを感じました。どうもありがとうございました。

国立障害者リハビリテーションセンター  
企画・情報部 高次脳機能障害情報支援センター  
研究員 今橋 久美子

## VIVIDからのお願い

VIVIDでは、私たちの活動趣旨に賛同し、会員、賛助会員、寄付者になっていただける方を募集しています。また、VIVIDの活動につきましては、当広報紙のほか、ホームページもぜひご覧ください。

<http://www.vivid.or.jp>

年会費

会員 個人 5,000円 団体 10,000円

賛助会員 個人 5,000円 団体 10,000円

寄付 金額に規定はありません

当広報紙をお読みになった感想、活動にたいすご要望、ご質問等お寄せください。

TEL・FAX 03-5849-4831

## 新宿高次脳機能障害者友の会(家族会)

### ～コリコリプリプリで舌つづみ～

新宿高次脳機能障害者友の会(アンサンブル)では、太田三枝子さん指導の「お料理の会」を行いました。梅雨入りしたものの雨の少ない日が続いていましたが、6月29日(土)新宿区大久保地域センターで9名が参加しました。当日のメニューは鶏手羽肉と大豆の煮物、新じゃが芋のフライドポテト、キャベツの即席漬け、かきたま汁、ごはん、デザートでした。回を重ねる毎に調理の方法も上達し、皆で作ったお料理の味は格別でした。



終了後は、家族会の総会を開きました。

次回の「お料理の会」は、8月3日(土)10時から、新宿区障害者福祉センター調理室で行います。



参加ご希望の方は…

太田三枝子さんへ連絡を

(☎・FAX)03-3200-8970

(携帯)090-8036-8606

会員以外の方も参加できます。

## 第6回総会開催終了

今年は、NPO法人の設立から5年が経過、第6回の総会が2013年6月1日(土)午後1時30分から、VIVIDの事務所で開催されました。

司会より開会宣言、定足数の確認の後、議長に北村とし子氏、副議長に牛越千鶴氏を選任、議長より議事録署名人2人を選出することを諮り、内田照美氏、池田敦子氏を承認し議事に入りました。第1号議案 2012年度事業報告、第2号議案 決算報告、ここでは、監査の報告もありました。第3号議案、2013年度 事業活動計画(案)では、今後の相談事業について他区からの受託を研究することなどの意見がありました。第4号議案 2013年度予算(案)ともに審議しました。第5号議案は定款の改正で、これは前年度NPO法が改正されたことによる文言修正が主な理由でした。

いずれの議案も議決され、15時には終了しました。

## 編集後記

仕事の合間を縫って、広報活動の一環として、新宿区内の医療機関巡りをしました。区内には所謂「全国区」の総合病院が多く、4月から始めましたが、未だに全部の病院に行けない状態です。しかし、訪問することによって何かしら収穫はあります。今回一面の原稿はそんな縁で書いていただきました。厚かましい依頼にも拘わらず快くお引き受け頂き感謝です。

(あ)